

節 分

狭山市立教育センター
所長 鈴木 浩明

「1月は『いく』、2月は『にげる』、3月は『さる』」とよく言われますが、その言葉どおり、新年を迎えたと思いきや、あっという間に2月になりました。時のたつ早さに日々驚かされます。

立春間近となり、寒さも幾分やわらいできた朝夕です。各地から梅や菜の花などの便りが届く季節となりました。

しかし、先日春らしい陽気であったと思ったら、その翌日には西高東低の強い冬型の天気となり、朝方は0度近くまで気温が下がりました。寒い日暖かい日の繰り返しとなり、寒暖差が大きくなってきました。体調管理が難し時期なのに、さらにノロウイルス等による感染性胃腸炎やインフルエンザの流行も懸念されます。外から家に帰ったら手洗い、うがいを欠かさずにおこなうなど健康に留意してお過ごしください。

さて、2月3日は「節分」です。「節分」は、季節の分かれ目のことですから、元来は「立春、立夏、立秋、立冬」のそれぞれの前日をさしていました。それを「立春」の前日を特別に「節分」とさすようになったのは、冬から春になるこの時期を一年の境とし、現在の大晦日と同じように重要に考えられていたためだそうです。

その日には、昔から「豆まき」の習慣があります。これは中国の習俗が伝わったものとされています。豆は「魔滅（まめ）」（鬼を退治するような意味です。）に通じ、無病息災（病気にならないで、健康で元気でいること）を祈る意味があります。昔、京都の鞍馬に鬼が出たとき、毘沙門天（仏教の神様）のお告げによって大豆を鬼の目に投げつけたところ、鬼を退治できたという話が残っており、「魔の目（魔目＝まめ）」（鬼の目）に豆を投げつけて「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通じるということです。そして最後は、豆を人間が食べてしまうことにより、鬼を退治した、ということになるそうです。

皆さんも、節分の日には、豆まきをして、大きな声で「風邪は外、福は内」と唱え、冬の大敵であるインフルエンザウイルスやノロウイルス等を学校や家庭の外に追い出し、多くの福や健康を我が身、家庭に招き入れたいものですね。